トランプトレードと英国予算案

いよいよ米大統領選まであと 1 週間だ。最近ではトランプ有利の見方が優勢になってきた。特に金融市場ではこうした傾向が増している。トランプトレードも再び幅を利かせてきた。株高、ドル高、ドル金利高を見越してのトレードだ。

さらにウクライナ、中東の緊張が緩和に向かう兆候もここにきて僅かだが出てきた。その点では大統領選を契機に世界の状況が好転することも考えられる。とても楽観的な見方だが、市場は大きな変化を期待し、明確なポジションを取ることを好む。

不確実性や地政学的リスクの拡大が長く続き、こうした状況に辟易してきた市場参加者の渇望でもあるのだろう。その点では期待が外れることへの対応も準備しておく必要がある。

米国では大統領選だけではない。重要な雇用統計や FOMC もこの 1 週間ほどの間に控えている。重要イベント目白押しの米国に市場の眼が集中するのは当然だが、米国外でも重要なイベントがある。

その一つは英国の予算案だ。英国の予算は昔から市場の変動要因の一つとして市場から注目されてきた。最近では 2 年ほど前にトラス政権がミニ予算案を発表し、市場の逆襲を食らった。債券、通貨、株のトリプル安に見舞われ、市場混乱の収拾がつかず、トラス政権は崩壊した。財源の根拠に乏しい大型減税案を打ち出したためだ。

今回はスターマー首相の労働党政権になって最初の予算案が本日議会に提出される予定だ。新政権の方針は投資を拡大して経済などの立て直しを図ることだが、そのために必要な借り入れ案が妥当かどうか、市場が大きな混乱なく受け入れるかどうかがポイントになる。

市場では借入額が予想より増加すると見て、このところギルト(英国債)の価格が下落基調だ(イールドは上昇)。ギルト 10 年のイールドは 1 か月前 4.04%から直近では 4.31%水準に上昇した。

ただ今年度の借入額の妥当性と同時に来年度以降の借り入れについての政府の考え方もチェックされる。増税も予定されているため、それを打ち消す成長戦略への信頼が予算案から生まれるかも重要になる。その結果市場の信頼性を十分得られれば、債券市場はポジティブに反応する可能性もある。

ポンドの為替レートはドル高基調の中で、長期金利が堅調な動きを見せているので下支えになっている。直近ではドルポンドは 1.30 近辺で安定した動きになっている。今日の予算案でトラス政権の時のようなとんでもない予算案が提出されるとは思えず、ポンドは大きく売られる可能性は低い。多少の失望で生じる長期金利上昇はポンドのサポート要因になる。予算案が市場の信頼を獲得して長期金利が安定した場合もポンドにはポジティブと思われる。

いずれにせよ英国にとっては大きなイベントになる。